

**説教題: 心の中でキリストを主としてあがめなさい。**

**聖書朗読ペテロの手紙第一 3章 13-22 節**

<sup>13</sup>もし、あなたがたが善に熱心であるなら、だれがあなたがたに害を加えるでしょう。<sup>14</sup>いや、たとい義のために苦しむことがあるにしても、それは幸いなことです。彼らの脅かしを恐れたり、それによって心を動搖させたりしてはいけません。[イザヤ 8:12] <sup>15</sup>むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。<sup>16</sup>ただし、優しく、慎み恐れて、また、正しい良心をもって弁明しなさい。そうすれば、キリストにあるあなたがたの正しい生き方をののしる人たちが、あなたがたをそしったことで恥じ入るでしょう。<sup>17</sup>もし、神のみこころなら、善を行なって苦しみを受けるのが、悪を行なって苦しみを受けるよりよいのです。

<sup>18</sup>キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなつたのです。それは、肉においては死に渡され、靈においては生かされて、私たちを神のみもとに導くためでした。<sup>19</sup>その靈において、キリストは捕われの靈たちのところに行ってみことばを宣べられたのです。<sup>20</sup>昔、ノアの時代に、箱舟が造られていた間、神が忍耐して待つておられたとき、従わなかつた靈たちのことです。わずか八人の人々が、この箱舟の中で、水を通つて救われたのです。

<sup>21</sup>そのことは、今あなたがたを救うバプテスマをあらかじめ示した型なのです。バプテスマは肉体の汚れを取り除くものではなく、正しい良心の神への誓いであります。イエス・キリストの復活によるものです。<sup>22</sup>キリストは天に上り、御使いたち、および、もろもろの権威と権力を従えて、神の右の座におられます。

皆さん、おはようございます。皆さんにまたお会いできてうれしいです。今月は、ペテロの手紙第一の2章と3章を見てきました。過去2週間で、私たちは、社会で関わる不信者の中で自分の行いを優れたものに保つための勧め、特に人生の中で特定の関係においてどのように行動すべきかについて読みました。

私たちは、不信者の前での証のために、キリスト者の市民が支配する権威に従順であることが良いことであると学びました。それは、秩序ある社会のための神の御心です。また、キリスト者の僕たちは主人に従順であり、敬意を持つべきであることも学びました。先週、私たちはキリスト者の妻は夫に従順であり、純潔で敬意を持つべきであり、キリスト者の夫は妻を理解し、神からいのちの恵みをともに受け継ぐ者として妻に尊敬すべきであることを学びました。このようにして、私たちは周りの不信者に良い証しとなることができます。

先週、私たちはペテロが3章8節と9節の言葉で、このテーマの教えを締めくくったのを見ました—「<sup>8</sup>最後に申します。あなたがたはみな、心を一つにし、同情し合い、兄弟愛を示し、あわれみ深く、謙遜でありなさい。<sup>9</sup>悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えてなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。」

私たちのすべての関係—家族の中で、教会の中で、社会の中で—は、調和、共感、親切心、そして謙遜によって特徴付けられるべきです。そして、私たちは不当な扱いを受けたときに復讐を求めるのではなく、むしろ祝福を与えなければなりません。ペテロは、私たちが神の祝福を受け継ぐために召されたと言っています…そして、私たちはノンクリスチャン

を神の国に招き入れるべきであり、彼らもまた神からこの祝福を受け継ぎ、救われることができます。これはペテロが1章、2章、3章で何度も表現してきた関心事です。

今日の聖書箇所の中の13-14節を読みましょう – 「<sup>13</sup>もし、あなたがたが善に熱心であるなら、だれがあなたがたに害を加えるでしょう。 <sup>14</sup>いや、たとい義のために苦しむことがあるにしても、それは幸いなことです。彼らの脅かしを恐れたり、それによって心を動搖させたりしてはいけません。 [イザヤ 8:12]」

ペテロは、私たちキリスト者がこの世に属さず、むしろ将来キリストとともに新しい家に向かう天の市民であるため、聴衆をこの地上で「旅人であり寄留者」と呼びました。私たちの周りのノンクリスチヤンは、私たちの生活様式が彼らとはあまりにも異なるために批判するかもしれません。そしてそれは、時には不当な苦しみを受けることがあっても、私たちが受け入れなければならない状況です。2章で見た通りです。3章のこれらの節では、私たちが証のために迫害を受ける〔害を受ける〕可能性があると読みます。しかしひペテロは言います。たとえそうなったとしても、私たちは心配する必要も恐れる必要もないと。時には神の民が誤った扱いを受け、証のために死に至ることさえあります。しかし私たちは恐れる必要はありません、なぜなら私たちの最終的な未来はキリストにおいて確かなものだからです。ペテロは明確に述べています、もし私たちが義のために苦しむなら、私たちは幸いであると。

使徒の働き5章の話を思い出します。使徒たちはイエス・キリストの福音を宣べ伝えたために、神殿の権威者によって逮捕されました。ユダヤの議会であるサンヘドリンでの議論の後、使徒たちは身体的な罰を受け、その後解放されました。使徒5章40-41節でそれを読むことが出来ます – 「<sup>40</sup>使徒たちを呼んで、彼らをむちで打ち、イエスの名によって語ってはならないと言い渡したうえで釈放した。<sup>41</sup>そこで、使徒たちは、御名のためにはずかしめられるに値する者とされたことを喜びながら、議会から出て行った。」

彼らは「イエス・キリストの御名とその福音のために辱しめを受けるに値するとみなされたことを喜んで」いました。肉体的にはつらいことですが、イエスの目撃の証を持ち、福音のメッセージを広めるという御命令に従うとき、あなたも喜ぶことができます。

ペテロの手紙第一3章14節に戻ります – 「<sup>14</sup>いや、たとい義のために苦しむことがあるにしても、それは幸いなことです。彼らの脅かしを恐れたり、それによって心を動搖させたりしてはいけません。 [イザヤ 8:12]」 以前お話ししたように、The New American Standard Bibleでは、新約聖書で文やフレーズがすべて大文字で書かれている場合、それは旧約聖書からの引用です。この引用はイザヤ書8章12節からのものです。イザヤ書8章を見てみると、12節の最後のフレーズはこう書かれています：「…この民の恐れるものを恐れるな。おののくな。」神の忠実な従者が批判や迫害を受けるとき、私たちはそれを恐れていません。13節は続けて言います：「万軍の主、この方を、聖なる方とし、この方を、あなたがたの恐れ、この方を、あなたがたのおののきとせよ。」人を恐れるのではなく、神を恐れなさい。神に従い、神に忠実であり続けなさい。14節の最初のフレーズはこう言っています、「そうすれば、この方が聖所となられる。」万軍の主は私たちの聖

所、私たちの聖なる場所です—それは私たちが住まうべき場所です。ペトロが私たちを『王である祭司、聖なる国民』と呼んだことを思い起こしましょう。ですから、私たちは聖なる者として、主なる神に完全に献身しましょう。

もう一度ペテロの手紙第一3章14と15節を読みましょう—「<sup>14</sup>いや、たとい義のために苦しむことがあるにしても、それは幸いなことです。彼らの脅かしを恐れたり、それによって心を動搖させたりしてはいけません。<sup>15</sup>むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。」

心の中でキリストを主としてあがめなさい。恐れるのではなく、神が義を尊び、あなたの信仰に報いてくださることを覚えておきなさい…そしてここ15節では、私たちは心の中でキリストを主としてあがめなさいと、述べられています。キリストは私たちの主です。先ほどイザヤ書を見ていたときに、私は万軍の主が私たちが休み、住むべき聖所であると言いました。今、ペテロは私たちに心の中でキリストを主としてあがめなさいと励ましています。つまり、心を特別な聖なる場所として取り分け、キリストが住まい、私たちの人生の主として支配する場所にするということです。キリストは私たちの心の主、心から願う主、そして活動の主です。私たちのすべての行動は、主を讃えるものであるべきです。これは私の前の二つの説教のテーマでもありました。キリストが私たちの心の主であるなら、信じない者たちからの批判を恐れる必要はありません。迫害を受けることはあるかもしれません、それを前向きに捉えるべきです。それはイエス・キリストのため、福音のために苦しむ栄誉だからです。その福音とは、人々が創造主と和解する方法についてのメッセージであり、私たちはこのメッセージの証人となることで祝福される、とペテロは14節で言っています。

そして15節をもう一度読みましょう—「<sup>15</sup>心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。」キリストが私たちの心の中で支配しているなら、私たちは常に、イエスにある希望について尋ねる批判的な人たちに答える準備をしておくべきです。優しさと敬意をもって、私たちの生き方やメッセージについて挑戦されたときにはいつでも、私たちの内にある希望について説明できるように備えましょう。

16-17節を読みましょう—「<sup>16</sup>ただし、優しく、慎み恐れて、また、正しい良心をもって弁明しなさい。そうすれば、キリストにあるあなたがたの正しい生き方をののしる人たちが、あなたがたをそしったことで恥じ入るでしょう。<sup>17</sup>もし、神のみこころなら、善を行なつて苦しみを受けるのが、悪を行なつて苦しみを受けるよりよいのです。」

これは2週間前に見たことと呼応しています。2章12節で、ペテロはこう言いました—「<sup>12</sup>異邦人の中にあって、りっぱにふるまいなさい。そうすれば、彼らは、何かのことであなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのそのりっぱな行ないを見て、おとずれの日に神をほめたたえるようになります。」良心に従い、立派にふるまいなさい。正し

いことをして非難されるとき、信じない者たちでさえ気づかぬうちに神をたたえることになるのです。

そして2章15節 – 「<sup>15</sup>というのは、善を行なって、愚かな人々の無知の口を封じることは、神のみこころだからです。」正しいことをしなさい。それが神の意志です。批評家たちは、神の正しい基準に従って生きる人生には答えがありません。

ペテロにとっていかに重要であるかを覚えておいてください。私たちはこの地上で異邦人であり、外国人であり、私たちキリスト者は社会の少数派であるにもかかわらず、私たちは正しく善良な行いによって影響を与えることができるということです。そして、福音のメッセージを宣べ伝えることによってもです。ペテロは、私たちが社会の中でどのように生きるべきかを教えてくれています。次に、2章の終わりでそうしたように、彼は私たちの模範としてイエスを指し示します。

ペテロの手紙第一3章18節で、ペテロはキリストの人類のための重要な働きを一節で要約しています – 「<sup>18</sup>キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなつたのです。それは、肉においては死に渡され、靈においては生かされて、私たちを神のみもとに導くためでした。」ここに福音の素晴らしいメッセージがあります。それは、義なる方であるイエス・キリストが、私たち不義なる人間のために死なれたということです。それは私たちを神に導くためであり、人間が神に背き罪を犯した後で、私たちを創造主と和解させるためです。ローマ人への手紙5章の重要な章では、アダムが神に背き、こうして罪と死がこの世界に入ったことが書かれています。しかし今、私たち全てに対して、第二のアダムであるイエス・キリストの犠牲によって義認（神との和解）が提供されていることも示されています。

ローマ5章12節を読みましょう – 「<sup>12</sup>そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界にはいり、罪によって死がはいり、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも全人類が罪を犯したからです。」17節 – 「<sup>17</sup>もしひとりの人の違反により、ひとりによって死が支配するようになったとすれば、なおさらのこと、恵みと義の賜物とを豊かに受けている人々は、ひとりの人イエス・キリストにより、いのちにあって支配するのです。」19節 – 「<sup>19</sup>すなわち、ちょうどひとりの人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、ひとりの従順によって多くの人が義人とされるのです。」

ここで私たちは、罪と死がアダムの不従順によってこの世にもたらされたという基本的な教義、そして恵みと救い、いのちと義の賜物がイエス・キリストを通して私たちにもたらされることを読みます。

ペテロは彼の手紙の3章の一節でその真理を一言でまとめ、重要な点としてキリストは単に死んだだけでなく復活もしたと付け加えています——ペテロはキリストが「肉体においては死に渡され、靈において生かされて」と言っています。しかし、18節で彼の文章は終わりではありません。彼にはさらに伝えたいことがあります。残念ながら、19節と20

節で彼が述べていることは新約聖書の中で最も謎めいた部分の一つであり、多くの議論と論争を生み出してきました。

ペテロの手紙第一3章18-20節を読みましょう - 「<sup>18</sup> キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなつたのです。それは、肉においては死に渡され、靈においては生かされて、私たちを神のみもとに導くためでした。<sup>19</sup> その靈において、キリストは捕われの靈たちのところに行ってみことばを宣べられたのです。<sup>20</sup> 昔、ノアの時代に、箱舟が造られていた間、神が忍耐して待つておられたときに、従わなかつた靈たちのことです。わずか八人の人々が、この箱舟の中で、水を通つて救われたのです。」

18節では、キリストは肉において死なれましたが、靈において生かされたと書かれています。そして19節では、その靈においてキリストは今捕らえられている靈たちに宣言されたと書かれています。これはどういう意味でしょうか？この「捕らえられている場所」とはどのような監獄なのでしょうか？これらの靈とは誰のことでしょうか？亡くなつた人間の靈でしょうか？それとも墮天使（惡靈）の靈でしょうか？またキリストは彼らに何を宣べ伝えたのでしょうか？これらはこの箇所について問われてきた質問のいくつかであり、これらのフレーズの意味については様々な解釈が示されています。

20節を見ると、これらの靈はノアが箱舟を建造していた時に不従順であったようです。神はあることに対して忍耐強く、ずっと待つておられました。そして箱舟の中で、洪水から救われたのは数人、8人の人々でした。

ここでペテロは正確には何を言つてゐるのでしょうか？新約聖書のいくつかの箇所では、聖書学者たちは筆者の思考の流れを見極めるのが非常に困難だと感じることがあります。この箇所は、新約聖書の中でも説明するのが最も難しい部分の一つです。目立つて異なる解釈が提案されてきました。優れた聖書教師たちもこの問題で合意に達することはできませんでした。ペテロの手紙第一の説教シリーズを準備するにあたり、有名な説教者ジョン・パイパーの非常に参考になるインタビューをYouTubeで見つけて聞きました。インタビューのビデオは「ジョン・パイパーと一緒に1ペテロを教えるのを手伝つて」というタイトルで、聖書カンファレンスで行われた討論です。彼らがペテロの手紙第一3章のこの箇所について話すとき、ジョン・パイパーはこの箇所が何を言おうとしているのか自分はよく分からないと率直に認めます。しかし、この箇所が何を言つてゐるのかについては二つの主要な理論があり、私はその両方を皆さんに紹介します。ちなみに、これら二つの見解はどちらもESVスタディバイブルで議論されており、スタディノートの著者たちはどちらの見解を支持するかについて立場を取つていません。

これから約15分ほど、私はこれらの三つの節について長めの解説を行おうと思います。長く感じるかもしれません、この難解な聖書の箇所でペテロが何を言おうとしているのか、全体像をしっかりとお伝えすることが重要だと思います。

私は両方の主な見解を説明します。まず、古代の教父アウグスティヌスが持つてゐた見解から始めます。ジョン・パイパーは、代替的な見解よりもこの見解をやや好むと言つてい

ます。この見解では、ペテロがペテロの手紙第二2章5節でノアを「義を宣べ伝えた」と呼んでいることに注目します。 – 「<sup>5</sup>また、（神は）昔の世界を赦さず、義を宣べ伝えたノアたち八人の者を保護し、不敬虔な世界に洪水を起こされました。」ここでのギリシャ語の名詞「preacher（宣教者）」は、ペテロの手紙第一3章19節のギリシャ語の単語「make proclamation（宣言する）」と密接に関連しています – キリストは今、囚われの靈たちに宣教したのです。聖アウグスティヌスが提唱したことや、今日多くの人が信じていることは、キリストの靈がノアを通して、箱舟を建てている間、その時代の不敬虔な人々に宣教していたというものです。箱舟を建てるには長い時間がかかり、その間ノアは人々に宣教していた可能性があります。1ペテロ3章20節は、今囚われの靈たちが不従順であったこと、そして神がノアの時代に忍耐強く待っていたことを述べています。この義の宣教者は、人々に悔い改めて箱舟に加わるよう促していたのでしょうか？神はそのような悔い改めを辛抱強く待ち、ノアのメッセージに応えるために人々に十分な時間を与えていたのでしょうか？

ところで、この手紙で私が初めて説教したときに見たいいくつかの聖句を見てみましょう。手紙の冒頭で、ペテロはイエス・キリストにおける偉大な救いについて述べています。そして、ペテロの手紙第一1章10~11節では、旧約の預言者たちについて次のように書かれています。 – 「<sup>10</sup>この救いについては、あなたがたに対する恵みについて預言した預言者たちも、熱心に尋ね、細かく調べました。<sup>11</sup>彼らは、自分たちのうちにおられるキリストの御靈が、キリストの苦難とそれに続く栄光を前もってあかしされたとき、だれを、また、どのような時をさして言われたのかを調べたのです。」

キリストの靈は、来るべきメシアについて預言した旧約聖書の預言者たちの中で働いていました。では、ノアがその時代の不敬虔な人々に義を説いた時、その靈はノアを通して働いていたのでしょうか。ノアの家族以外には、誰も箱舟に加わりませんでした。創世記6章5節はこう言っています – 「主は、地上に人の惡が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。」ここで私が説明している見解によれば、ペテロの手紙第一3章19節に出てくる「捕らわれの靈たち」とは、ノアのメッセージを拒絶し、洪水で滅んだ悪人たちの靈のことです。それらの靈は現在、牢獄にあり、裁きを受けて苦しんでいます。

この解釈は、ペテロが語ってきたことの文脈の中ではある程度意味が通じます。ノアとその家族が不敬虔な社会の中で少数派であったように、ペテロの時代のキリスト者も不敬虔な社会の中で義なる人々の少数派でした。ノアが義を説いたように、私たちキリスト者もキリストの福音を説き、社会の中で正しい生活を送るべきです。ノアが来る裁きについて説いたように、ペテロの手紙第一4章では、私たちの現代の終わりに来る裁きについての記述を見ることができます。そして、ノアとその家族が救われたように、私たちキリスト者もやがてこの墮落した世界から救われることになるのです。

先ほど申し上げたように、このペテロの手紙第一3章のこの箇所の意味については、第二の見解があり、私が先ほど説明した見解とは大きく異なります。

この第二の見解では、牢獄の中の靈は死んだ人間の靈ではなく、むしろ悪い天使です。新約聖書において、複数形の「靈」（spirits）という言葉が出てくるとき、それはほとんどの場合、天使のような超自然的存在を指しています…善い天使も悪い天使も含まれます。神が宇宙を創造し、天使を創造した後、天使の約三分の一がサタンの神に対する反乱に加わったという話を聞いたことがあるかもしれません。これらを「惡靈」または「墮落した天使」と呼びます。おそらくペテロの手紙第一3章19節では、牢獄の中の靈とは、何か非常にひどいことをして将来の最終審判を待つために拘束されているこれらの惡靈の一部であると考えられます。

黙示録20章2節から3節では、ある時点でサタンが千年間縛られ、キリストが地上で統治すると書かれており、その後サタンは解放されると記されています。黙示録20章7節では、サタンが牢獄から解放されるとも書かれています。ここでは、邪惡な天使が牢獄に縛られるという例を見ることができます。

ペテロの手紙第一の第3章で囚われの靈の話に戻ると、ペテロの手紙第二に興味深い並行する節が見られます。私が第二ペテロ2章5節でノアを義を宣べ伝えたとして引用したこと覚えていますか？ペテロは前の節で興味深く、そして不可解なことを言っています。ペテロの手紙第二2章では、ペテロは人々の中の偽教師たちと、その教師たちに対する来るべき裁きについて論じています。そして4節で次のように書かれています。「<sup>4</sup>神は、罪を犯した御使いたちを、容赦せず、地獄に引き渡し、さばきの時まで暗やみの穴の中に閉じ込めてしまわれました。…」ここで私たちは、神が罪を犯した天使たちを罰し、地獄に投げ込んだことを見ます。ペテロがここで「地獄」と表現するために使ったギリシャ語は珍しく、タルタロス（Tartarus）です。新約聖書でタルタロスが使われているのはこの節だけです。神はこれらの悪い天使たちをタルタロス、すなわち暗闇の穴に閉じ込め、裁きのために備えておきました。これはペテロの手紙第一3章19節にある「牢獄」と同じものでしょうか？確かにその可能性は高そうです。ユダの手紙6節には、同様の記述が見られます。-「<sup>6</sup>また、主は、自分の領域を守らず、自分のおるべき所を捨てた御使いたちを、大いなる日のさばきのために、永遠の束縛をもって、暗やみの下に閉じ込められましたこれは、罪を犯した天使たちが、裁きのために用意された暗闇の穴に投げ込まれたというペテロの描写によく似ています。

では、自分の領域を守らず、ふさわしい居場を離れたこれらの天使たちは誰なのでしょうか。これらは創世記6章に出てくる「神の子たち」と呼ばれる存在であると考えられています。イエスが生まれる前の時代には、多くのユダヤ文学が作られ、その中で創世記6章の「神の子たち」が誰であるかについて多くの推測がされています。そして、彼らはしばしば地上に降りてきた悪い天使たちとして特定されました。どうやら、ペテロやユダによってもこれらの考えが知られていたようで、彼らが言及している罪深い天使たちが、これらの「神の子たち」である可能性があります。

創世記 6 章 1-5 節を読みましょう – 「<sup>1</sup>さて、人が地上にふえ始め、彼らに娘たちが生まれたとき、<sup>2</sup>神の子らは、人の娘たちが、いかにも美しいのを見て、その中から好きな者を選んで、自分たちの妻とした。<sup>3</sup>そこで、主は、「わたしの靈は、永久には人のうちにとどまらないであろう。それは人が肉にすぎないからだ。それで人の齢は、百二十年にしよう。」と仰せられた。<sup>4</sup>神の子らが、人の娘たちのところにはいり、彼らに子どもができたころ、またその後にも、ネフィリムが地上にいた。これらは、昔の勇士であり、名のある者たちであった。<sup>5</sup>主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。」

地上の人間の悪は非常に大きく、3 節で神はその悪に時間の制限を設けたことがわかります。それは 120 年でした。この章の後半では、地上で唯一正しい人であるノアに箱舟を建てるよう命じられますが、それには 120 年かかったと考えられ、人々には自分の罪を悔い改める時間が与えられたことになります。しかし、ノアの妻と 3 人の息子およびその妻たちだけが彼に従い、他の人々は従いませんでした。「神の子たち」が人の娘と結婚し、子孫をもうけました。これらの「神の子たち」とその子孫は、おそらく人間の悪心に影響を与えたと考えられます。

ペテロとユダが、「神の子たち」は悪い天使であり、自分のふさわしい居場所を離れて地上に来て、女性と結婚し子をもうけることで重大な罪を犯したという考えを持っていたのではないかと示唆されています。私はずっと、創世記における「神の子たち」を悪い天使と同一視することが好きではありません。なぜなら、超自然的な存在が子どもをもうけることができるとは考えられないからです…まあ、もちろん、もしこでいうのが、悪魔が人間の男性の体を乗っ取って子をもうけた場合なら別ですが。ああ、もし創世記 6 章でそれが当てはまるなら、理解できます。福音書には、悪魔に取り憑かれた人々が非常に強い身体能力を持っている例があります。ですので、この同一視が正当な考え方もあるかもしれません。

ペテロの手紙第一 3 章 19 節に戻りましょう。もしかすると、この『囚われの靈』とは、創世記 6 章で子どもをもうけた『神の子たち』すなわち邪悪な天使たちであり、その罪があまりにも重大だったために、神は彼らを闇の穴に閉じ込め、将来の裁きのために備えたのかもしれません（ユダ 6 節、ペテロの手紙第二 2 章 4 節）。そうかもしれません。20 節は、これらの靈たちがノアの時代に不従順であったと述べています。

さて、私はこの「牢獄にいる靈」とは誰かについて、二つの主要な見解があるとお話ししました。ESV スタディバイブルはその両方を取り上げており、どちらか一方を支持してはいません。私はまた、ジョン・パイパーの「ペテロの手紙第 1 を通して教える方法」に関するインタビューの動画を見たこともお話ししました。彼は、ペテロの手紙第 1 に関する最良の注解書は、トーマス・シュライナーとウェイン・グルデムが書いたものであると述べています。ウェイン・グルデムは、私が最初に述べた見解、すなわちキリストがその時代の悪しき人々に対してノアを通して説教していたという見解を支持しており、トーマ

ス・シュライナーは、「牢獄にいる靈」を創世記6章で「神の子たち」と呼ばれた悪靈であり、現在は牢獄に縛られているとする二つ目の見解を支持しています。

ペテロの手紙第一3章19節で、キリストは牢獄にいる靈たちにどのようなメッセージを宣言されたのでしょうか。第一の見解によれば、それはノアが説いた悔い改めのメッセージです。第二の見解によれば、キリストは悪しき天使たちに対して罪に対する勝利を宣言されていたのです。

この話題についてもっと話せればよいのですが、18-20節におけるこれら二つの見解の説明が長くなりすぎてしまいました。ここで少し立ち止まり、今日の箇所の冒頭でペテロが伝えたかった要点に戻りましょう。13節-「<sup>13</sup>もし、あなたがたが善に熱心であるなら、だれがあなたがたに害を加えるでしょう。」ペテロは、彼の読者に対して、あらゆる種類の批判や迫害の中でも揺るがずにいるよう励ましています。15-16a節-「<sup>15</sup>むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。<sup>16</sup>ただし、優しく、慎み恐れて、また、正しい良心をもって…」キリストは私たちの心の主であるべきであり、これが私たちに揺るぎない勇気を与えます。そして私たちは良心を保たなければなりません—周りの人々が、私たちが真の神に従っていることを知るように、清い生活を送る必要があります。

ペテロは、私たちが社会の少数派であっても、信仰を持つクリスチャンとして忠実であるように勧めています。次の聖句では、キリストが苦しみを受け、勝利を得たこと、そしてノアとその家族が社会の少数派であったが忠実であり続け、洪水から救われたことが示されています。ペテロは、私たちが困難に直面しても神が私たちを救い、永遠の命を神と共に分かち合えることを伝えているのです。

本日のメッセージの締めくくりとして、17節から22節までの箇所を一緒に読みたいと思います。この6節は、原語ギリシャ語では一つの文です。今日皆さんのが聞いたすべてのことを踏まえて、ノアの物語と、神を畏れない社会の中での彼の信仰に関してペテロが伝えたかった主なポイントを思い出しながら聞いてください。

1ペテロ3章17-22節-「<sup>17</sup>もし、神のみこころなら、善を行なって苦しみを受けるのが、悪を行なって苦しみを受けるよりよいのです。<sup>18</sup>キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなつたのです。それは、肉においては死に渡され、靈においては生かされて、私たちを神のみもとに導くためでした。<sup>19</sup>その靈において、キリストは捕われの靈たちのところに行ってみことばを宣べられたのです。<sup>20</sup>昔、ノアの時代に、箱舟が造られていた間、神が忍耐して待っておられたときに、従わなかつた靈たちのことです。わずか八人の人々が、この箱舟の中で、水を通じて救われたのです。<sup>21</sup>そのことは、今あなたがたを救うバプテスマをあらかじめ示した型なのです。バプテスマは肉体の汚れを取り除くものではなく、正しい良心の神への誓いであり、イエス・キリストの復活によ

るものです。<sup>22</sup>キリストは天に上り、御使いたち、および、もろもろの権威と権力を従えて、神の右の座におられます。」

ペテロは、ノアとその家族が箱舟で救われたことと、私たち自身の洗礼との間に対応関係を見ています。洗礼は単なる身体の汚れを洗い流す水の儀式ではなく、かつての不義な生活に対する私たち自身の死を象徴し、神を敬う新しい生活への復活を象徴するものです。イエスが天に昇天された後、今や神の右に座しておられることに注目してください。これは、イエスの生涯、死、復活を通して、天使や支権威と権力に対する勝利を達成された後に起こることです。この「権威や権力」という言葉は、エペソ 1:22、6:12、コロサイ 2:15 に見られるように、悪しき悪魔の力を指しています。

今日は次の2節に目を向けることで締めくくりたいと思います。1ペテロ4章1-2節 - 「<sup>1</sup>このように、キリストは肉体において苦しみを受けられたのですから、あなたがたも同じ心構えで自分自身を武装しなさい。肉体において苦しみを受けた人は、罪とのかかわりを断ちました。<sup>2</sup>こうしてあなたがたは、地上の残された時を、もはや人間の欲望のためではなく、神のみこころのために過ごすようになるのです。」

ペテロは私たちにこれらすべてを書いたのは、私たちがキリストの模範に従い、苦しむことを恐れず、罪に満ちた古い生活を捨てて神の御心に従って生きるよう願っているからです。

これが今日の説教の主なメッセージです：

不敬虔な社会の中で少数派であっても、迫害や批判の中で忠実であり続け、イエス・キリストの勝利の死と復活を通じた救いの福音の証人となりなさい。